



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.42

毎月1日号に掲載

より他国の戦争に引き込まれないようにするために、自国で自国の兵器を開発する事が最も重要ではないかと感じている。国産兵器の開発が国の技術力を向上させる事は歴史が証明している。あの永世中立国の

建国を祝う会

2月11日の建国記念の日、私が顧問を務める日本会議福山支部主催・福山商工会議所後援「建国を祝う会」がリーデンローズで開催された。田母神俊雄氏の記念講演「日本を守る・集团的自衛権から憲法改正へ」を目当てに私達の予測を大幅に上回る1400人の方が参加された。

航空幕僚長を務めた田母神氏は、日本は武器輸出国になるべしと説いた。一例を挙げれば航空自衛隊の戦闘機はすべて米国製であり、同型式でも米軍のそれより能力的に劣る格落ち機で、しかも米軍提供のソフトが無いと稼働しない。これでは同盟国と言いなから未だに米軍の占領下、属国と言っても良い状態ではないか。かつて「零戦」という傑作戦闘機を作った日本の戦闘機生産技術は封じられて久しい。

私は、集团的自衛権の行使に

スイスさえも武器輸出国だ。もちろん戦力を保持する以上、正義の政治が不可欠であると強く思う。

ジャーナリストの桜林美佐氏によれば国産戦車一両を製造するのに約1300社に及ぶ企業に関係しているようだ。その多くが町工場であり、ものづくりのまち福山においても関係企業は多い。戦車の生産台数は年間わずか数台であり、製造ラインは閑古鳥が鳴いているのが実態である。軍需産業が儲かるなど空想であり、多くの企業が国のために儲け度外視で部品を製造している。

すでに戦後ではなく、戦前であるという声を聞く。私は国防の実態を知るために機会を見つけて千歳から那覇まで各地の自衛隊基地を見学している。自衛隊は誰に対しても門戸を開いているので、皆様もぜひ一度基地を訪問して国防の最前線を視察されてはいかがだろうか。その上で憲法改正の是非を判断していただきたい。